

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771400484		
法人名	社会福祉法人大阪府社会福祉事業団		
事業所名	白島荘グループホーム「華の家」		
所在地	大阪府箕面市白島3丁目5番50号		
自己評価作成日	令和3年2月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年3月、在宅でのケアを継続できれば認知症状の進行を遅らせる事が出来るのではないかとこの考えから開設し、市内では第1号のグループホームです。平成19年3月より共用型のデイサービスも開始しました。平成25年から建て替えの為に引っ越しを経て、平成26年8月に現在の特養併設の形となりました。特に地域の方との交流を深め、老人会を始め様々な行事にスタッフ共々参加しています。地域ボランティアの方が行事に参加して下さる等、地域の方にも運営をご協力頂いています。健康面では併設診療所だけでなく、自宅で生活していたかかりつけ医の住診も継続して利用できます。夜勤帯や緊急時には併設する特別養護老人ホームからの応援体制も整っています。常に家庭的な雰囲気を大切に、明るく笑顔で、ご自身の力を発揮しながら生活が送れるよう支援に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2771400484-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年3月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人や白島荘の理念の下ホーム独自の理念を掲げ、自立支援や家庭的な雰囲気を大切に日々の中で利用者と一緒に調理や洗濯物干し、掃除等を行い役割や力を発揮できるよう支援に取り組んでいます。白島荘全体で地域との様々な相互交流がありました。コロナ禍のため難しい状況となっている中、小学校での車椅子講習等出来る範囲で地域とのつながりを継続しています。ホーム内での取り組みも長年勤める職員も多く利用者との関わりを大切に意見を出し合い、利用者の好きな事や懐かしい事等を聞いて話をしたり家族に本やアルバムを持参してもらったり、また家族との繋がりを大切に、うちわを送付し利用者宛にデザインしてもらおう等家族にも協力を得ながら工夫をしたり、家族には日頃の取り組みや利用者の様子をブログや毎月の手紙、電話等で伝えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を集約し理念に通じる標語を作成し、実践に繋げている。事業所内の掲示は玄関と事務所横に掲示している。	法人の理念や白島荘の理念と行動指針を下にホーム独自の理念を掲げ、玄関等見やすい場所に掲示しています。家庭的な雰囲気を大切に考え、自立支援につながるよう利用者への支援についてスタッフ会議やサービス担当者会議では理念を念頭に置きながら話し合い取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染の影響で、利用者と地域と交流する機会がなくなった。それまでは地域の自治会の年中行事へ参加していた。また、月1回地域ボランティアによるお茶会他、写真セラピー、アートフラワー、カラオケ等、各種プログラムでの交流を深めていた。地域の方の協力で週2回玄関前での出張朝市にお買い物に出掛け、季節の野菜や果物などの食材を購入し地域の方との交流の機会を得ていた。	コロナ禍以前は自治会行事や地域ボランティアの来訪、子どもたちとの交流等白島荘全体として様々な地域との交流の機会がありました。今年度は依頼を受けて小学校に出向き車椅子操作の講習や専門学校の実習生の受入れ、正月にはボランティアの方に玄関用の生け花に来てもらう等出来る範囲での地域とのつながりを持ちたり、民生委員とは地域の情報のやり取りを行う等出来る範囲でつながりを持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の年中行事への参加を行い、認知症の人の理解を深めて頂ける様にお話する機会をもうけていたが、新型コロナウイルスの影響で行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催していましたが、新型コロナウイルスの影響で運営推進会議は行えていない。そのため、関係者には書面にて報告を行っている。	運営推進会議は通常2か月に1回家族や民生委員、地域包括支援センター職員、市職員等の参加を得て開催し、利用者の身体状況やホームでの取り組み、行事、事故等の報告を行い意見交換を行っています。今年度はコロナ禍のため書面開催とし参加者に書類を送付し市とは後日電話で話し合いを行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	3か月に1回市の高齢者グループホーム連絡会があり、市町村担当者に意見をもらうなどの協力関係が出来ている。運営推進会議においても市町村担当者がほぼ毎回出席している。新型コロナウイルスの影響によりグループホーム連絡会及び運営推進会議は開催できていない。	運営推進会議へのメンバーでもありホームの取り組みを知ってもらっており、コロナ禍での開催についても相談をしています。また市の窓口書類の提出や電話でのやり取りも行い、今年度は中止ですが市の関わりのあるグループホーム連絡会があれば参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を毎月開催しており、身体拘束に繋がらない取り組みを行っている。身体拘束の研修も行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2回身体拘束に関する研修を行うと共に毎月施設全体で行う委員会がありホーム会議で伝達しています。言葉による行動制止に繋がらないよう待ってもらう際には具体的にわかりやすく説明するよう努めています。安全確保のため夜間センサーを使用している利用者がいますが使い方や必要性等の話し合いを行い使用を最小限にしています。また玄関等は施錠していますが利用者に寄り添い、外出希望があれば玄関先やテラスで気分転換を図ってもらっています。	

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を毎月開催し、研修も行っている。また法人全体で事業所ごとにチェックを行い、職員に対してもセルフチェックを行い、自らの行動を見直す機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についてのリモートによる研修を受け、ほかの職員へも情報共有する事で制度についての理解に努めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章にて確認するとともに、十分な説明を行い、理解と納得してもらえるように努めている。了解して頂き署名、捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時やサービス担当者会議の際に意見や要望の確認をしている。家族と職員の交流の場として「華の家」サロンを開催し意見交換できる場としていたが、新型コロナウイルスの影響により開催できていない。	日々の利用者との関わりの中で寄り添い要望を聞いており、夜間帯での入浴支援や手作りおやつ等の提供等を行っています。家族には毎月の手紙や写真入りのブログで利用者の暮らしぶりや行事の様子を伝えており、訪問時や電話、メール、満足度調査等で意見を聞く機会があります。ブログ掲載写真や面会に関する意見があれば改善したり、面会については玄関先等で会ってもらったり、端末使用について説明しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケアスタッフ会議を開催して意見や提案を聞く機会にしている。日々のケアの中での注意点等意見交換できる場となっている。	毎月スタッフ会議があり、職員は施設全体で集まる委員を担っており委員会での内容を会議の中で伝えていきます。また夜勤の勤務時間について意見があれば実際に変更し再度話し合ったり、足浴器等支援に必要な物について意見があれば物品購入につながる等意見を大切に反映しています。また年に2回管理者による面談でも意見を聞き、日々の中でもコミュニケーションを図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回以上職員との面談を実施し、就業環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で初任者研修や実務者研修を行っており、職員が受講できるようになっている。働きながらの資格取得をサポートするため、受講費用の返金制度も設けている。また新人職員へのフォローアップ研修も個別に計画し、日常支援業務の中で行っている。		

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回市の高齢者グループホーム連絡階があり、毎回テーマを決めて決めて活動報告や意見交換を行い、サービスの質の向上させていく取り組みを行っていたが、新型コロナウイルスの影響により一同に介しての集まりはできていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の話や要望を聞き、出来るだけそれらに沿えるよう努めたり、安心して暮らせるような関係づくりに努めている。家族とも部屋の設え等について相談し本人が過ごしやすい生活環境となるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接やサービス担当者会議を通じて様々な要望や意見を聞き、それらに沿った支援が出来るよう関係づくりに努めている。また、面会の都度、職員も含めて本人の様子を伝えて不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接やサービス担当者会議で必要とされる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般(調理・食器洗い・洗濯物干し・洗濯物たたみ・掃除など)を通じて職員と利用者は協力しながら行える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣類の入れ替え、布団のシーツ交換、排泄用品の補充など入居前の生活様式の継続のためご家族に可能な範囲で担って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、かかりつけ医への受診や買い物、美容院等への外出が行えている。今年度は新型コロナウイルスの影響により自粛されている。家族との面会はLINE通話を用いて行っている。	面会についてはコロナ禍のため玄関先や窓越しに顔を見てもらったり端末でテレビ電話を付き添いながら支援しており、友人から電話があれば取り次いでいます。以前は馴染みの美容院に家族と行ったり、馴染みの場所等に家族と一緒に掛ける支援を行っていましたが現在は家族と定期的な通院に出掛けています。また年賀状を書く方もおり届いた場合は一緒に読んだり話をしています。	

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブル席に座る位置等は利用者同士が関わり合えるような配慮をしている。また、余暇活動で利用者同士が交流を深めるような支援を行っている。利用者の人間関係を常時観察し、安心して暮らせるよう配慮している。ソファを2か所に配置し、2～3人だけの空間を作るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて本人やご家族と連絡を取っている。併設特養へ入所された方には訪問も相互に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議や面会時にご家族から情報を得ながら、思いや希望など意向の把握に努めている。困難な場合もご家族の協力を得て本人本位に検討している。	入居前に利用者が生活している場に出向き本人や家族と面談を行い、意向や生活歴、趣味、習慣等を書面にまとめ、また共用デイサービスから入居の場合もありスムーズに情報収集し思いの把握につなげています。入居後は得られた情報は日々の記録や職員連絡帳で共有し、把握が困難な場合は思いを汲み取り本人の立場に立って会議で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接やサービス担当者会議、面会時に本人や家族から情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の記録やケアプランチェック表、モニタリング等の記録をしっかりと行うと共にスタッフ会議で現状の情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、本人や家族の意向を反映すると共に主治医に行けんを求めたりケアスタッフ会議やモニタリングなどで職員から意見を出してもらい、チームとして介護計画を作成し、実践出来るよう努めている。	本人や家族の意向やケアチェック表でのアセスメントを基に介護計画をし、初回は1カ月その後は状態に変化が無ければ6カ月で見直しています。毎日計画の実施記録と毎月モニタリングと評価を行い、計画の見直し時には再アセスメントとサービス担当者会議を開催し、利用者や訪問時や電話で家族の意見を聞き、必要があれば医師や歯科医の意見も計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個人記録、申し送りノートを通じて情報の共有を図っている。また、月総括記録やモニタリングで介護計画の見直しを図っている。		

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴回数を希望に応じて増やすなどニーズに応えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への外出や地区老人会や地域行事への積極的な参加を通して住民との交流を図り「利用者も地域で暮らす一住民」という視点を大切に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向により、入居前からの主治医に継続受診または往診を受ける事ができている。	入居時に希望のかかりつけ医を聞いており、継続している方もおり往診を受けています。ホームの協力医による往診が月に2回あり、同診療所の看護師に毎日バイタルチェック等健康管理に来てもらい、オンコールで24時間連絡可能な体制で指示を仰いだり医師に繋げてもらっています。専門医への受診は家族が対応し利用者の状況は書面を作成し、報告もらっています。また必要や希望に応じて歯科往診を受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	白島診療所の看護師と密に連絡をとり、情報交換に努め利用者が適切な医療サービスを受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はその病院の地域連携にかかわる部署との連絡を密にとり、情報交換や連絡を頻繁に行っている。主治医の家族への説明の機会に同席し適切な対応が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を定め、入居時に家族に説明している。看取りは現在まで対象者が居なかった為、経験はなく今後の取り組みとなっている。重度化の先送りを目的に適切なケアで本人お力が発揮されるよう支援している。設備・体制上出来ないケアを入所や施設見学の際説明し必要に応じて特養入所を案内する事も行っている。	看取りに関する指針にそって入居時に説明しホームでの医療体制等出来る事出来ない事を伝えていきます。身体状況の低下が見られた場合は早い段階で家族に相談し意向にそって入院や併設施設への転居となる事が多く現状では看取り支援の経験はありません。看取りに関する研修は年に1回併設施設での研修を受講しホームで伝達しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は研修にて職員に徹底している。		

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養と共同で避難訓練を年2回以上行い、職員全員が対応出来るように訓練している。うち年1回は消防署の立会いのもと訓練を行っている。法人として合同訓練も年1回行っている。	年に2回昼夜想定で消防訓練を併設施設と合同で行い、1回は消防署の立会いや地域ボランティアの協力を得ていましたが今年度はコロナ禍のため独自で行っています。訓練では非常ベルを鳴らし館内放送で知らせ、利用者と一緒に避難口まで避難したり、火災報知器の場所や散水栓ホースの使い方の確認をし、訓練後は振り返りを行っています。施設全体で自家発電機を備え、水や食糧等の備蓄もあります。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇向上委員会での提案をスタッフ会議の際毎回取り上げ、月々の目標を掲げ、尊厳、プライバシーに配慮した対応を行う指針としている。	施設全体で権利擁護の研修があり伝達や接遇チェックシートで振り返りを行い、接遇や虐待防止委員会での内容を会議で伝えています。利用者は目上の方であり尊厳を持って接する中で固苦しくならないよう距離感を大切に個々に応じた対応に努めています。不適切な対応があれば意見を聞き管理者から話をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、些細な希望でも遠慮なく表現できるよう、選択的なお誘いをし自己決定の機会を奪わないよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活リズムを把握し、そのリズムを崩さないように支援を行っている。起床時間は利用者の生活習慣に合わせてゆっくりと寝ていてもう良い環境を整えている。朝食は、個別に用意出来るため、起きた時、食べたいときに食べられるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の好みやヘアスタイル等、個人の希望の聞き取りに努めそれに沿うよう支援し、ヘアカラーやパーマもして頂いている。入浴時には本人に衣類を選んでもらいご自身でコーディネートしてもらえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者の出来ることを見つけ職員の見守り、声掛けの支援で下ごしらえや調理、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、後片付け等をして頂いている。	行事食や旬等に配慮された献立にそって昼と夕食は出来上がった物を温めて提供し、夕食の1品は食材が届き調理し、また朝食と昼と夕食のご飯と汁物はホームで準備しています。可能な利用者に盛り付けや具材を切ってもらい、後片付け等と一緒にしています。月1回お楽しみディナーとして献立から決めてお節料理や豆ご飯等をいつもとは違うメニューの提供や手作りおやつ等食事が楽しみなものになるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された宅配の食材業者を活用している。食事・水分摂取量の把握については個人記録に記入して1日の摂取量を把握している。食事形態は個人の状態に応じ、調理や盛り付け段階で食べやすく手を加えている。		

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個別の状態に応じた口腔ケアを実施している。また、希望者には訪問歯科診療を受けられるような機会を設けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全ての入居者がトイレでの排泄を行っている。また、介護方法や適切な排泄用品の選定はスタッフ会議等で意見交換や情報共有を図り統一できるよう努めている。入居と同時に紙パンツの使用を中止し、布パンツに変えて頂いた方もおられる。	全利用者の排泄記録から間隔を見て排泄パターンを把握し自立している方もいますが日中は居室のトイレで排泄出来るよう支援しています。夜間のみ個々の状況に合わせて紙パンツやおむつに変更する場合もあり、排泄支援や排泄用品の選択については毎月の会議や日々の中でその都度話し合っています。入居時に紙パンツを使用していた方には支援の継続により失敗が減り布の下着に変更になる方もおり、トイレでの排泄を大切に自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の健康状態を把握したうえでヨーグルトやオリゴ糖等、飲食物の使用を積極的に行っている。日中の運動や散歩等の機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思やその時の状況に応じて柔軟に対応しており、変更も行っている。足浴の提供機会も加えて楽しんで頂いている。	入浴の支援は週に2回日中の時間帯で行い希望にそって夜間帯の入浴も可能です。湯は一人ずつ入れ替え、柚子湯をしたり好みのシャンプー等を持参する方もおり、職員と話をしたり鼻歌を歌いながらゆっくり入ってもらっています。強く拒否する方はいませんが入浴を断る方には次の日にする等無理の無いよう支援し、入浴しない日には足浴も支援しています。希望があれば同性介助に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体力や体調を考慮し、必要な方には日中ベッドでの休息時間を設けている。居室は1日に2回室温・湿度の確認、記録を行い、快適過ごせるよう支援している。また、寝具の状態、夜間のトイレ誘導のタイミングにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋をファイルに綴じ職員全員が閲覧できるようにしている。服薬の変化があった際には課題にあげて申し送るなど安全に服薬管理が行えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(洗濯・食器洗い・洗濯物干しやたたみ等)が好きな利用者には職員と一緒に手伝ってもらったり、手先の事が好きな方にはレクリエーションや創作活動などに参加し作品を展示するなど楽しみを活かす場を持つ機会を設けている。		

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方の協力も得ながら、地域行事や買い物・散歩などの支援を行っている。また天気の良い日は近くの公園等、戸外に出る機会を作っている。(新型コロナウイルスの影響により日常的に実施はできていない)	以前は公園への散歩や買物、地域行事、季節毎や家族の協力を得ての外出、外食等多数の出掛ける機会がありました。コロナ禍では施設内の散歩や秋には紅葉を観に個別でドライブに行く等工夫しながら出掛けたり、テラスで食事をしたりお茶を飲む他、花の水やりや洗濯物干し等で外気浴を支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かりが主になっているが、個人の買い物については支払いはご自身の財布から行えるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおられ、持っていない方にも希望時には家族からの電話を取り次ぐことの支援も行っている。また、LINE電話も活用し面会自粛の間には家族の顔をみながら通話できる取り組みも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの照明を暖色にししたり、壁の色はアイボリーやベージュの色合いで優しい配色を選んでいく。壁飾りなど季節感を感じられるような工夫をし、家庭的で居心地の良い環境作りに努めている。利用者の描かれた絵も飾っている。	リビング等に利用者と一緒に毎月作成した季節の作品やクリスマスツリー等の季節の飾り付け、時々生花を飾る等季節感を大切にしています。席の配置は利用者同士の相性を考慮し、テーブルにはビニールのパーテーションを設置し、またソファや廊下にもソファと長椅子を置き離れた場所ですごす場所を確保しています。温湿度計の確認や利用者の体感を聞きながら換気を行い、手すりの消毒や加湿器を置き、毎日掃除を行い居心地良くまた清潔保持に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルの他、ソファの複数配置や畳コーナーなどを利用し居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し個人の使い馴染んだ家具や好みの物を居室に配置し、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。	洗面台とトイレがあり、入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝えていきます。テレビやダンス、テーブルと椅子等を持参し家族が配置し、大切にしている遺影や孫の写真、落ち着くぬいぐるみを傍に置いている方もいます。また趣味の塗り絵の画材を持参したり居室で日記を付けている方もいます。生活習慣に合わせ布団で休んでいる方もおり、居室の掃除は出来る方と一緒に行う等個々に合った居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム内には全てバリアフリーになっている。ベランダから庭へもスロープ、手すりを設置して、園芸活動が行いやすいようにしている。各居室にもトイレが設置されおり、車椅子の方でも使用できるよう広さを確保している。また、ご自身の居室が分かりにくくなってきた方のために個別に名前が分かるように工夫している。		